

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-296077

(P2005-296077A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005.10.27)

(51) Int. Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
A 6 1 B 5/16	A 6 1 B 5/16	4 C 0 3 8
A 6 1 B 5/00	A 6 1 B 5/00	1 O 1 E 4 C 1 1 7
H 0 4 B 7/26	A 6 1 B 5/00	1 O 2 C 5 K 0 2 3
H 0 4 M 1/21	H 0 4 M 1/21	M 5 K 0 6 7
	H 0 4 B 7/26	M
審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)		

(21) 出願番号 特願2004-112510 (P2004-112510)
 (22) 出願日 平成16年4月6日(2004.4.6)

(71) 出願人 598133953
 柴田 文雄
 東京都日野市百草999番地 百草団地1
 33-110
 (74) 代理人 100058479
 弁理士 鈴江 武彦
 (74) 代理人 100091351
 弁理士 河野 哲
 (74) 代理人 100088683
 弁理士 中村 誠
 (74) 代理人 100108855
 弁理士 蔵田 昌俊
 (74) 代理人 100075672
 弁理士 峰 隆司

最終頁に続く

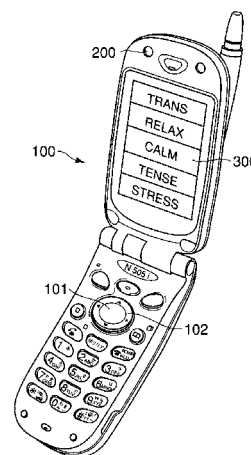
(54) 【発明の名称】 携帯電話によるストレス確認装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】身近な装置を利用してストレス状態を容易に確認できるようにした携帯電話によるストレス確認装置を提供する。

【解決手段】 携帯電話器に、体温を検知する体温センサーを設けるとともに、前記体温センサーの出力に応じて、体温の値に応じて複数の区分された精神状態の区分出力を得る手段と、前記区分出力に応じた表示を行う手段と、前記精神状態の区分出力はテーブルデータに格納され、メール機能により送信されるストレス確認装置。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

携帯電話器に、体温を検知する体温センサーを設けるとともに、前記体温センサーの出力に応じて、体温の値に応じて複数に区分された精神状態の区分出力を得る手段と、前記区分出力に応じた表示を行う手段とを設けたことを特徴とする携帯電話によるストレス確認装置。

【請求項 2】

前記精神状態の区分出力は、テーブルデータとして格納されていることを特徴とする請求項 1 記載の携帯電話によるストレス確認装置。

【請求項 3】

前記精神状態の区分出力は、メール機能により送信されることを特徴とする請求項 1 記載の携帯電話によるストレス確認装置。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、体温がストレス状態により変動することを利用して、ストレスを確認できるとともに、且つ、身近な携帯電話器を利用することで特別な器具を購入する必要がない携帯電話によるストレス確認装置に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来から、ストレスの状態を数値的に計測する装置が知られている。この装置を利用するユーザは、計測した数値を認識し、意識的にリラックス状態になるようにセルフコントロールするのである。

【0003】

ストレスの状態を数値的に計測する手段は、脳波計測、皮膚電気抵抗計測、皮膚温度計、血圧計などが存在する。これらの計測手段は、いずれも専門の医師が治療のために使用するものであり、高価である。また携帯型のものも工夫されたが、ユーザにとっては持ち歩く手間が増えて、忘れることもあり、有効な利用が成されていない。

【発明の開示】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

上記のように、従来の計測手段は、専門の医師が治療のために使用するものであり、高価である。また携帯型のものであると、ユーザにとっては持ち歩く手間が増えて、忘れることもあり、有効な利用が成されていない。

【0005】

そこでこの発明は、身近な装置を利用してストレス状態を容易に確認できるようにした携帯電話によるストレス確認装置を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

この発明は、携帯電話器に、体温を検知する体温センサーを設けるとともに、前記体温センサーの出力に応じて、体温の値に応じて複数に区分された精神状態を表示する手段を設けたことを特徴とする。

【発明の効果】**【0007】**

上記の手段によると、極めて身近な携帯電話器でストレス確認が可能となり、かつ、判定手段も容易に携帯電話器のサービスアプリケーションとして装備できるために、安価で有効に実施可能である。

【発明を実施するための最良の形態】**【0008】**

以下この発明の実施の形態を図面を参照して説明する。図 1 はこの発明の一実施の形態

10

20

30

40

50

を示す概要図である。携帯電話器 100 の本体には、センサー 200 が設けられている。ストレス確認モードに切換えるために、例えばメニューボタン 101 を押して、“ストレス確認”という表示位置に、カーソルボタン 102 にほりカーソルを合わせ、ボタン 101 を押し下げる。これにより、表示部 300 には、“TRANS”、“RELAX”、“CALM”、“TENSE”、“STRESS”という表示が得られる。

【0009】

ここで、センサー 200 に指を押し当てることにより、上記“TRANS”、“RELAX”、“CALM”、“TENSE”、“STRESS”のいずれかがマークされる。例えば、いずれかのエリアの色が赤く着色される。これにより、“TRANS”に色がついた場合は、トランス状態、“RELAX”に色がついた場合は、リラックスした状態、“CALM”に色がついた場合は、平静な状態、“TENSE”に色がついた場合は緊張状態、“STRESS”に色がついた場合はストレス状態と判断することができる。

【0010】

図 2 には、上記のストレス確認装置の機能ブロックを示している。センサー 200 の出力は、計測回路 201 に入力される。計測回路 201 の出力は、精神状態区分テーブル 202 に入力される。精神状態区分テーブル 202 では、センサ出力の値に応じて上記の“TRANS”、“RELAX”、“CALM”、“TENSE”、“STRESS”表示出力のいずれかが選択され、この表示出力が表示部 300 に供給されるようになっている。図 2 には、ハードブロックが構成されているように記載したが、この機能（計測回路及び精神状態区分テーブル）はソフトウェアにより実現してもよいことは勿論のことである。例えば“TRANS”、“RELAX”では体温 34 度以上、“CALM”では 32 度～34 度、“TENSE” 32 度～30 度、“STRESS”では、30 度以下が目安とされている。

【0011】

またこの発明は上記の実施の形態に対してさらに精神状態区分テーブルの出力をメールで転送できるようにしてもよい。例えば、ユーザのホームドクターのメールアドレスに自動的に転送するように設定できるようにしてもよい。これにより、例えば精神状態が悪化している場合は、ファミリードクターにより、電話によるアドバイスを受けることも可能となる。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】本発明の一実施の形態を示す説明図。

【図 2】本発明の要部のブロック機能を示す図。

【符号の説明】

【0013】

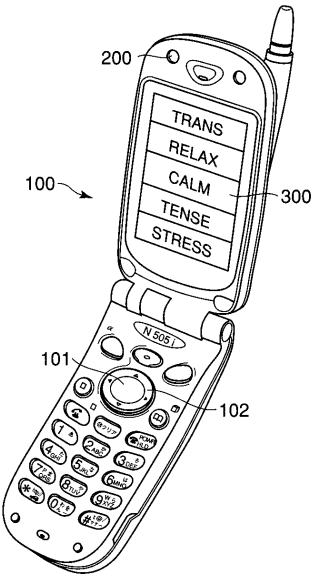
100 ... 携帯電話器本体、101 ... メニューボタン、102 ... カーソルボタン、200 ... センサー、300 ... 表示部。

10

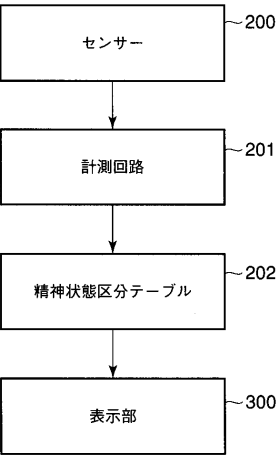
20

30

【 図 1 】



【 図 2 】



フロントページの続き

(74)代理人 100109830

弁理士 福原 淑弘

(74)代理人 100084618

弁理士 村松 貞男

(74)代理人 100092196

弁理士 橋本 良郎

(72)発明者 柴田 文雄

東京都日野市百草 9 9 9 番地 百草団地 1 3 3 - 1 1 0

F ターム(参考) 4C038 PP03 PQ06 PS00

4C117 XA01 XB01 XB18 XC11 XD17 XE23 XG01 XG22 XJ09 XJ21

XJ31 XJ48 XL05 XM05 XP03 XP08 XP15 XQ07 XQ11

5K023 AA07 HH01 HH06 MM00 MM25

5K067 AA34 BB04 BB21 DD51 EE02 HH22 KK15